# キャリア通信

１０月号
キャリアデザイン部

・履修相談週間
・服装について
・看護・医療・福祉系進学
・大学合格後に何をする
・受験生の心の休ませ方

2024 年 10/22 発行

１０月に入っても日中は強い日差しを受けますね。ただ、夕方になると涼しい風が吹き、一枚はおるものが欲しいと思ってしまいます。秋らしい秋まではもう少しかかりそうですが、日没の時間も早くなってきました。秋は何をするにもいい季節です。いろんなことに積極的に取り組んで欲しいと思います。

## ✎次年度選択科目について、履修相談週間について　1・2年次

中間考査前に、次年度選択科目の履修についての説明会が実施されました。教務部の先生方から、科目の選択について、気を付けなければいけないことについてのお話があったはずです。選択によっては、進路に影響が出ることもありますので、しっかりと間違いの無いよう選択してください。

基本的には、各自の進路に関係のある科目を履修します。ただし、選択枠すべてがそれで決まるとは限りません。その時にどの科目を履修するか悩むとは思いますが、

**次のような①②の基準で決めるようにしてください。**
①進路に関係する科目（必須です）
②自分の能力を伸ばせる、成長できる科目、興味がある科目（楽しそうは△）

**やってはいけない選択は、③④のような選択です。**
③楽ができそう（×です、後々苦労します）
④友達が一緒に選択するから（自分のことです！）

過去の例ですが、古典を選択していなくて、受験したいと思った大学を受けられなかったという先輩がいました。１年次生は特に、進路未定の人も多いと思いますが、出来るだけ進みたい進路のことについて、試験科目についても調べておきましょう。卒業後の自分を想像してそれに合う科目を選択できるようにしましょう。

また、今週の月から金曜日、**10月21日(月)から25日(金)は「履修相談週間」**です。科目担当の先生と履修についての条件などについて確認することができます。履修可能となれば確認印をもらうことができます。もちろん、気になることがあれば個別に相談してください。自身にとって、良い選択ができるようにしてほしいと思います。

## ✎服装について

今年は 10 月中旬になっても、夏日（25℃以上）になる日も多く、服装に困る日がありますね。夏服から冬服への移行期間も 10 月末までとなりました。（例年は９月末）

**寒い日はジャケットを着ることになりますが、その時は校章を付け、ネクタイまたはリボンをきちんと着用してください。**
生徒ハンドブックで確認し、王子総合高校の生徒としての品位を保つよう、心がけて下さい。寒いからと言って、ジャケットの代わりに、トレーナーやパーカーなどを着用することは認められません。キャリア通信９月号でも、服装についてのお話をしました。制服はフォーマルな服装で私服ではありません。着用基準を守りましょう。

## ✎「好奇心」の「賞味期限」

**「好奇心」には「賞味期限」がある。**こういった言葉を聞いたことはありますか？何となく想像がつくと思います。何かについて見たり聞いたりした瞬間に『楽しそう』『やってみたい』本であれば『読んでみたい』と思うことは、今までも経験があると思います。

あらゆることに興味・関心をもてる探究心が高い人は好奇心旺盛なため、広い視野で物事を考えられる人材だと他者に評価してもらえます。視野が広いということは、物事を多面的に捉えられる能力が高く、成果につなげやすいということです。そうした人は、誰もが正しいと思い込んでいることに疑いを持ったり、誰も思いつかないアイデアを発案したりできます。

また、探究心の強い人は、**知りたいことを知るために自主的に勉強できる**のが長所です。自ら進んで知識を得ようとする人は勉強だけでなく、仕事でも成果を出しやすいため、企業に重宝される傾向にあります。

**好奇心は持った時が一番強く、だんだん薄れていきます。なるべく早めにアプローチしましょう。**

## ✎看護・医療・福祉系進学希望者の皆さんへ

今月の『蛍雪時代』の特集は、看護・医療・福祉系の大学・短大・専門学校特集です。本校でも例年希望者の多い分野です。仕事内容に興味がある人、出願校を決めたい人、また、進学費用が気になる人はぜひ手に取って読んでください。**※2階エレベーター横に置いてあります**

看護・医療・副詞系には看護師、理学療法士、社会福祉士など 20 を超える国家資格があります。

取得するには、大**学・短大・専門学校の各養成課程**で学び、国家試験の**受験資格を取得**することが必要です。

各学校の**特色や違いについて**、専門職大学の特徴について違いを知ることも出来ます。

また、各学校の**国家試験の結果(合格率)などの一覧も掲載**されています。

ぜひ、学校選びの参考にして下さい。

## ✎ 大学合格後に何をするか！

学力を問う筆記試験に合格する新入生の数が減り、各種の推薦制や面接中心の「総合型」試験で入学する学生が増えています。(本校もそうですね)大学の学力水準を維持するには、一般入試の合格者が最低で 30%は必要だとされるのに、私学では 3 割強がこの水準に達していません。ほとんどの大学が、**新入生の基礎学力の不足を感じているそうです。**入学後に到達度試験を実施し、習熟度別のクラス編成をする大学が、国公私立の全体で 80%を超えたというのです。**工学部入学者で分数の足し算が出来ず、文科系で常用漢字の書けない学生がいるという実話を耳にしたこともあります。**大学入学時の学力は、一般入試合格者より、総合・推薦合格者のほうが低いという、ベネッセの統計資料もあります。総合・推薦合格者のなかには、「合格したから、卒業出来さえすればよい。」「大学の課題さえ提出していれば、他には何もしなくてもよい。」などという考えから、勉強に対する意欲が低下する人がまれにいます。しかし、**一般試験合格者と入学時点で、学力差がついてしまっているとしたら、その後の 4 年間の大学生活に大きな影響があることは必至です。**合格したからこそ「安心」して勉学に励んでもらいたいものです。できれば受験時よりもよい成績を残して、卒業することが望ましいでしょう。

また、普段から、**何か目標を定めて勉強することをお勧めします。**進学先の学部･系統に関する書物を読む、一般入試合格者に差をつけられないように今から赤本を買って勉強する…そうすると一般受験者がどの程度の受験勉強をして入学したかがわかりますね。何でもよいと思いますが、はっきりとした目標を設定したいなら、検定を受検することをお勧めします。3年次生は今月４日に英検を受毛ましたね。１・２年次生はこれからですね。現在よりひとつ上の級を取得して卒業してほしいです。

## ✎受験生の心の休ませ方　加藤諦三

この本は、心理学がご専門で早稲田大学名誉教授の加藤諦三先生が高校生向けに書いた本です。学ぶとは、大学に進学するとはどういうことか、悩んだ時のヒントになるのではないか、ということが沢山書いてありました。なかには厳しい意見もありましたが…。皆さんは高校生、何事にも純粋に取り組める今、多くのことを学んでほしいと思います。

『**大学は人間が豊かになるところである。人間は社会に役立つようにできている。だから自分は何に役立つかを大学で発見する。人間としての基礎を作るのは若いときである。大学は専門を学ぶだけのところではない。大学では人間の基盤を作る。**野球をするのには、まず基礎体力を作る。バットを振るにも基礎体力がものをいう。基礎体力を作るトレーニングより試合をするほうが面白いかもしれないが、基礎体力がなければ野球の選手にはなれない。**テニスが面白くなるのは、テニスがわかりだしてからである。はじめからテニスが面白いのではないだろう。**学問も同じだ。よく「大学で本気で学びたい学問が見つからない」と言う高校生がいる。学問がつまらないと思うのは、生きることに興味がないからである。今までも興味があることをしてこなかったからだ。日常生活がつまらないから、学問がつまらないと思う。**日常生活に興味があれば学問は自然と面白くなる。**人文科学にも、社会科学にも興味がわいてくる。生きることに興味があり、日常生活に興味があれば、最も率の悪そうな「古典を学ぶ」のも面白くなる。和歌にも心の叫びが出ている。

**自分自身を生きていれば何も学んでも「へえ、そうか」と感動する。**そうすれば「生きるためには文学って大切だな」と思うときもくる。

**四十代になってから文学を学ぶのと、十八歳の純粋なときに学ぶのとは、どちらにも意味があるが、得るものは違う。**

ハーバード大学の学生と話をしていたら、学問をするのは恋愛をするのと同じように面白いと言っていた。学問は本来それくらい面白いのである。』